

メルマガ 第3号 吉村順三記念ギャラリー 展示企画や見学会を ご案内いたします。  
新緑の候 美しい緑の季節を迎え 皆様、如何お過ごしでしょうか。

\*\*\*\*\*

吉村順三記念ギャラリーでは

★★☆ J YMG 小さな建築展 第21回 ☆★★

「 軽井沢山荘 C-折れ屋根の家 」 展を  
5月1日(土) から6月6日(日)迄の  
各土曜日・日曜日 午後1時～6時まで  
開催しております。

吉村山荘「森の中の家」は樹間に浮かんでいる。「折れ屋根の家」こちらは同じ森の中で  
地面にごろりと ころがされた様に 置かれている。 前者 4間×4間に比べ 4間×  
3間4尺。 ほとんど同じサイズなのに、この間口2尺(600mm)の違いが折れ屋根の形  
を生んだ。 僅かな違いが大きな差となってくるのを見て下さい。

\*\*\*\*\*

・・・「 軽井沢山荘 C-折れ屋根の家 」 展・・・

あまり大きさの変わらない吉村山荘は軽井沢の街はずれの小高い斜面の樹間に浮かんで  
いる。 それに較べ、この山荘Cは旧軽井沢銀座のすぐ裏手の平らな敷地に、積み木の  
一片のように、樹々の根元にゴロリと置かれています。

平面は4間×3間4尺(7200mm×6600mm)と4間×4間(7200mm×7200mm)  
の吉村山荘より僅かに小さいけれど、丸太の桁、壁、天井とも同材の羽目板張り、天井の  
高い居間、階高の低い2階の和室と予備室(吉村山荘では実際には3階)、簡素なファイ  
アープレース、そして長州風呂と後者を範としたのは誰の目にも明らかです。

それでも無論違いはあります。大きなところは、1メートルほどの高さの基礎をコン  
クリートブロックとしたこと、居間と食堂がワンルームであること。これに繋がって大き  
く庭に張り出した当時としては相当大きなデッキが設けられていること。珍しくキッチン  
が食堂・居間から丸見えに開放されていること。2階の梁がデッキへの大きな開口部の真

ん中まで張り出していて、即ち、開口の半分は天井の低い食堂で、他の半分は天井の高い居間となっており、小さい家にしては不思議な迫力を見せることとなりました。そして途中で勾配を変える屋根なりの居間の天井もそうです。

この家の設計に当たっての最大のテーマはなんといっても低予算にあるでしょう。少ないマテリアル、コンクリートブロック積の基礎、下見板張りの外壁、折れた屋根等々。現場の監理も最小にするようにとの指示もありました。この山荘の唯一といっても良い贅沢は、居間と食堂を広げることとなる大きなデッキでしょうか。

どうして屋根が折られ、なぜそれがローコストか。前に述べたように、吉村山荘と比べると屋根の流れ方向に2尺(600mm)短いうえ、最高桁高を決める2階の階高が250mmほど高く(この部分の下階の天井高2100mm、吉村山荘1950mm)ここをある程度に抑えて、同じ方式で片流れにすると、居間の低い側でもどうしても随分と高くなってしまい、落ち着きを失います。当然のことながら勾配を色々変えたり、カーブした屋根もスタディーしていました。ある時、吉村は途中の桁から屋根を折ってしまいました。大きい壁より小さい壁のほうが安価であることには間違いありませんし、Rの屋根にした場合の諸々を考えるとこちらの方が安くいくことは確実でした。同時に居間は庭に向き、可愛い形がうまれました。

この山荘の施主は吉村の義兄夫妻で、ある時“この家のほうが吉村山荘より絶対に良い”と発言しました。吉村山荘の持ち主である吉村夫人は憤然と“そんなことはない、こちらのほうが断然良い”と反論しました。吉村はどう思っていたのか興味をひかれます

30年近く経った1992年、施主夫妻は、二人の娘さん夫婦と三組と一緒に夏の別荘生活を楽しみたいと、増築を希望しました。吉村は当初、“完成しているものをいじるのは気がすすまない”と断ったそうです。しかし、再度の依頼でようやく引き受けました。庭に面して敷地一杯まで約1間半(正確には2600mm)間口が拡張され、1階の食堂がはっきりしたスペースを獲得し、2階に個室が加えられました。2階に便所を加えるなど水周りにも手が加えられましたが、長州風呂は新しいものに交換されたとはいえ同じ場所にあります。拡張された部分は、いちばん高いところにあった丸太の桁を棟にして反対勾配の屋根をかけられ“折れ屋根の家”から“マンサード風の家”になりました。

増築工事が完成したとき、吉村は“こういうのも悪くないね、これからはもっと積極的にやってみようか”といったそうです。(文責 小林 武)

■展覧会について詳しくは→ <http://www.sepia.dti.ne.jp/jymg/>

\*\*\*\*\*

★★☆愛知芸大の見学会とシンポジウム☆★★

『吉村順三の仕事を今、学ぶ』

～自然に寄り添うように計画された愛知芸大の現代的意味を考える～

[http://www.passivedesign.com/sp/sp100612\\_aigei.htm](http://www.passivedesign.com/sp/sp100612_aigei.htm)

- 日 時：平成22年6月12日（土）  
11：30～18：00（受付11：10より）
- 場 所：見学 愛知県立芸術大学（愛知県愛知郡長久手町）  
シンポジウム&懇親会 名古屋クレストンホテル  
（愛知県名古屋市中区栄3-29-1）
- シンポジウムパネラー 道家駿太郎・永田昌民・檀田伸也・松隈洋
- 参加費：見学会&シンポジウム 4,000円（税込）／人  
見学会・シンポジウム&懇親会 9,000円（税込）／人  
.
- 定 員：150名（先着順）
- 問合先：自然エネルギー研究所（担当：竹本）  
TEL: 03-3952-9861 / FAX: 03-3952-9862  
（受付：月～金 10時～17時）  
email: [agk0612@passivedesign.com](mailto:agk0612@passivedesign.com)

※メール件名は「6/12 愛知芸大見学申込」としてください。

※受付後、詳細のご案内と振込先をファックスいたします。

※スケジュールは、申込書 ↓ をご覧下さい。

< [http://www.passivedesign.com/report/sp\\_aigei\\_100612.pdf](http://www.passivedesign.com/report/sp_aigei_100612.pdf) >

★★☆吉村順三記念ギャラリーからのお願い☆★★

ホームページ内の愛知芸大の関連内容を是非ご覧いただき、存続に向けご協力いただきますようお願い申し上げます。（今後メールマガジンでも情報をお知らせいたします。）

